

第7期（令和2－3年度） 境港市みんなでまちづくり推進会議事業報告書

協議テーマ「住み続けたいくなるまちづくり」

1. 市民の交流推進、地域コミュニティの強化

市民同士がつながるきっかけや機会を増やすこと、異世代・異業種の人や国内外からの移住者など多種多様なたくさんの市民が交流し、地域コミュニティを強化することで、市の課題だけでなく、市民が気づいていない市の魅力などを共有することができます。

このことにより、行政と市民の距離が縮まり、新たな協働の活動が創出されます。

また、他地域との人流が生まれるような環境や若者の出会いの場などの創出が必要です。

★キーワード

異世代・異業種・移住者との交流、若者の出会いの場の創出、地域井戸端会議、リモート交流

2. 豊かな自然環境を生かした産業の振興

本市は三方が海に開けた素晴らしい自然環境にあります。自然災害も少なく、とても住みやすいまちです。

この自然環境を生かして水産品、農産品などの地元産品のブランド化、高付加価値化を図り、地元企業の価値を高め、長く働ける場所を増やしていく必要があります。

また、そうした自然環境や地元産品を活用した環境教育や食育を通じて、小さい頃からふるさとへの愛着を育む教育を推進する必要があります。

一方で、市の課題である耕作放棄地を活用した農業の推進や空き家の利活用を進め、移住者や若い世代が定住できる環境整備が必要です。

★キーワード

自然を生かす、体験型の観光振興（釣り場の整備、マリンレジャー、食・農業体験）、雇用の促進、耕作放棄地の整備（農業の推進）、空き家の利活用、地元産品の活用

3. 車がなくても生活できる暮らしの支援

本市は平坦でコンパクトなまちですが、多くの市民が、生活するために自家用車を移動手段としています。

車の運転が困難な高齢者等が買い物や通院時に公共交通を利用することが多いため、市内主要施設をつなぐ公共交通の充実・利便性向上が必要です。

また、移動販売や配達システム、配車サービス、自転車や車のシェアリングといった取組を地域で進めるための支援も必要です。

★キーワード

交通手段の充実、陸・海・空の交通網の連携、はまる一歩バスの増便、配達システム構築、移動販売、配車サービス、自転車や車のシェアリング、自転車や歩行者にやさしく安全な道づくり

4. デジタル技術を生かした情報発信

近年、情報の入手先として、SNS が大きくシェアを伸ばしており、本市においてもホームページをはじめ、Twitter や YouTube 等を活用したわかりやすい情報発信が求められています。

市からの情報発信だけでなく、子育て中の方や移住者など、多くの市民が SNS やマスメディア等により、体験したことや市の魅力などを発信することを促進するための施策も必要です。

一方で、情報発信のデジタル化により、デジタル技術の活用慣れていない人が取り残されないように、市からはきめ細やかな案内を行い、同時に、地域の中で教え合うことのできる支援体制が必要です。

★キーワード

市の情報を配信するメールサービス、マスメディアで発信、公民館での SNS 講座、市の魅力を発信した人・団体に対する支援（割引券や活動費の支給）

5. 選ばれるための魅力ある教育環境の整備

県外の人に移住してもらう、また、今いる市民にこれからも住み続けてもらうには、その地域の教育環境はとても重要なポイントです。子どもたちの学力向上のための施策や高等教育機関の誘致、デジタル技術により境港にいても専門性の高い教育を受けられる環境の整備が必要です。

また、境港で育った子どもたちが、境港で就職、あるいは、転出しても将来Uターンしてもらうために、ふるさと境港に愛着を持てるよう地域と連携した文化・歴史の教育の推進や地元企業と連携した職場体験、また、本市で起業してもらうための起業家養成講座などの施策が必要です。

★キーワード

学カレベルの向上、大学の誘致、通信講座が受けられる環境整備、コミュニティスクールの推進、起業家養成講座、島根大学生による境港市の学習